CA92276-8260-01

グラフィックスカード PG-VGA201 / PG-VGA201L 使用上の注意

このたびは、弊社のグラフィックスカード PG-VGA201 / PG-VGA201L をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品をご使用になる上で注意事項および訂正事項がございますので、本書をよくお読みの上ご使用願います。

2008 年 6 月
富士通株式会社

Ⅰ. PRIMERGY BIOS / FW Update CD for PG-VGA201 について

1. BIOS / Firmware アップデートの概要

グラフィックスカード取扱説明書『1.3 グラフィックスカードご使用時の注意事項』にてご案内させて頂いておりますが、本製品をご使用するためには搭載するサーバ本体のBIOS版数が以下に示す版数以降である必要があります。

サーバ本体	BIOS版数
PRIMERGY RX300 S3	1.06 以降
PRIMERGY RX200 S3	1.04 以降
PRIMERGY TX200 S3	1.06 以降
PRIMERGY TX150 S5, TX150W S5	1.05 以降
PRIMERGY RX100 S4	1.06 以降
PRIMERGY TX120, TX120W	1.04 以降

Fig 1. グラフィックスカードを搭載可能なサーバ本体BIOS版数一覧

本製品にサーバ本体のBIOSをアップデートするためのCD-ROM「PRIMERGY BIOS / FW Update CD for PG-VGA201」を添付しておりますので、以降の手順に従ってアップデートをお願い致します。適用後の版数は以下になります(iRMC FW/LAN FWも同時にアップデートされます)。

サーバ本体	BIOS版数	iRMC FW版数	LAN FW版数
PRIMERGY RX300 S3	1.06	1.31A	2.02
PRIMERGY RX200 S3	1.04	1.32A	2.00
PRIMERGY TX200 S3	1.06	1.32A	0.92/1.01(*)
PRIMERGY TX150 S5, TX150W S5	1.05	1.52A	1.00
PRIMERGY RX100 S4	1.06	1.52A	2.03
PRIMERGY TX120, TX120W	1.04	1.52A	3.15

(*)ご購入されたモデルにより異なります(アップデートの必要はありません)

Fig 2. アップデート後の版数一覧

POINT

最新BIOSは以下のWebサイトよりダウンロードできます。本製品を搭載するサーバ本体の製品名（例：TX150 S5)、型名(例：PGT1554AA)をご確認のうえ、Webサイトの「ダウンロード」より入手してください。その後、同梱の手順書を参照してアップデートしてください。

http://primeserver.fujitsu.com/primergy/

2. BIOS / Firmware アップデートの所要時間

アップデートする場合の所要時間は、およそ 30 分です。

３．注意事項

注意
BIOS/iRMC などの設定データは、アップデート後もアップデート前の値が引き継がれます。BIOS/Firmware のアップデート後に情報を再設定する必要はありません。

注意
BIOS/Firmware のアップデート中に予期せぬ電源切断やリセット等を行うと、サーバが動作しなくなることがあります。

手順の中で明記されているタイミング以外での電源の切断および
システムリセットは、絶対に行わないでください。

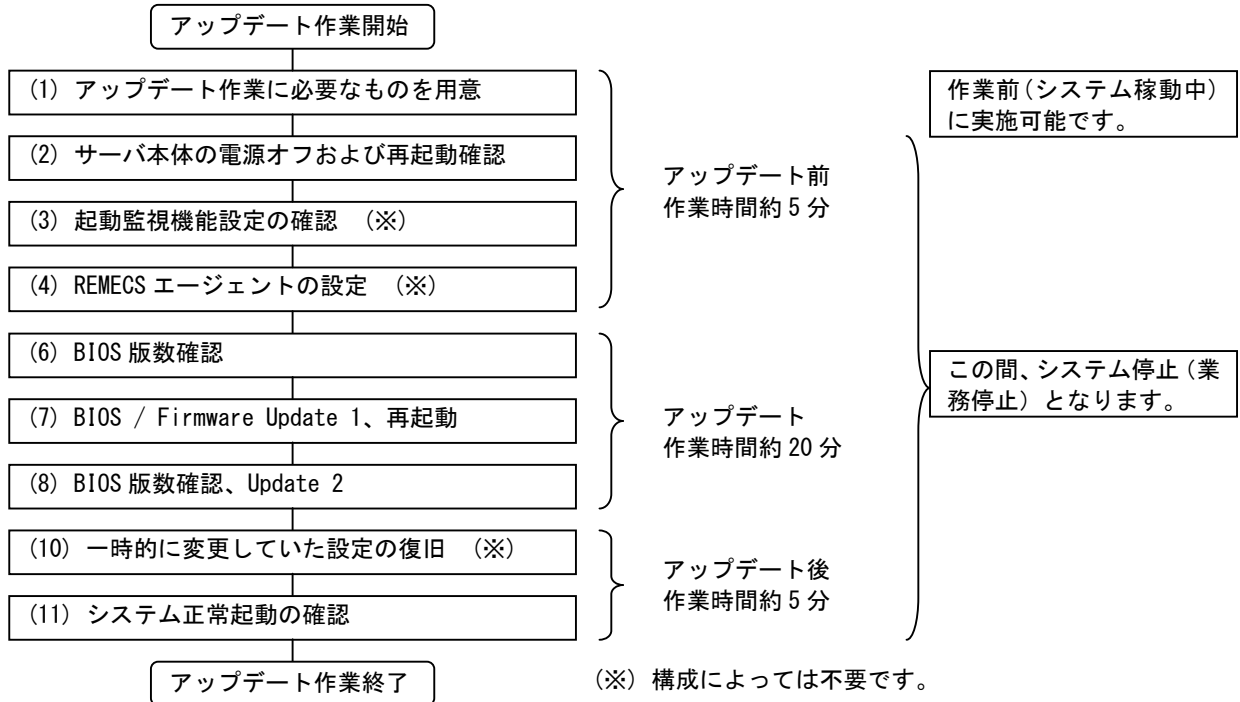
万が一アップデートに失敗し、サーバが正常に動作しなくなった場合は、「6. BIOS のリカバリー方法について」をご覧になり、復旧作業を行ってください。

注意
BIOS アップデート後は、本体装置添付の Server Management Tools が使用できなくなる場合があります。「5. Server Management Tools について」をご参照の上、最新の Server Management Tools を作成してください。

注意
長期間フロッピーディスクドライブ/CD-ROM ドライブのクリーニングを行っていない場合は、ヘッド（データを読み書きする部品）の汚れの為、媒体の読み書きに失敗する事があります。
媒体の読み書きに失敗する場合は、まずユーザーズガイドの「お手入れ」をご参照の上、クリーニングの実施をお願いします。

４．BIOS / Firmware アップデート手順について

4.1 作業の概要

サーバ本体のBIOS/Firmwareアップデート手順の全体の流れは以下のようになります。
アップデート作業を順調に行うため、事前に本書を読み、作業内容を把握しておいてください。

4.2 アップデート作業に必要なもの

アップデート作業を開始する前に以下についてご用意してください。

項	用意するもの	備考
1	PRIMERGY ドキュメント&ツールCD	サーバ本体添付品 CD-ROM内の各ユーザーズガイドを参照します。
2	PRIMERGY BIOS/FW Update CD for PG-VGA201 V1.0 L30	グラフィックスカード添付品
3	フロッピーディスク1枚（以前の内容は消去されます）	Server Management Tools作成用 お客様にて別途ご用意下さい。 (サーバ本体添付のServer Management Tools を上書きして作成して頂いても問題ありません)

以下は、BIOSのリカバリーアップデート時に必要になります(通常は必要ありません)。

項	用意するもの	備考
1	フロッピーディスク1枚（以前の内容は消去されます）	通常は必要ありません。 BIOS リカバリーアップデートの際に使用します。 お客様にて別途ご用意下さい。

4.3 事前準備

4.3.1 サーバ本体の電源オフおよび再起動確認

BIOS/Firmwareアップデート作業を実施する前に、作業対象サーバのシャットダウン、電源オフ、再起動を実施し、本作業実施前にシステムが正常に起動することを確認してください。
これはOS起動ファイル等の通常アクセスされない領域が正常であることを確認しておき、BIOS/Firmwareアップデート完了後のシステム起動で万一問題が発生した場合の原因切り分けを容易にするために行うものです。24時間稼動のサーバや、長時間未使用のサーバに対してBIOS/Firmwareアップデート作業を実施する場合、特に必要です。 本確認でシステムが起動出来ない場合、BIOS/Firmwareアップデート作業を実施せず、サーバの修復を行ってください。

4.3.2 ServerViewの起動監視機能設定の確認

アップデート作業を開始する前に、ServerViewの起動監視機能（OSブート監視）が「監視しない」に設定されていることを確認します。

「監視する」に設定されている場合は、「監視しない」に変更してください。

ServerViewについては、PRIMERGYドキュメント&ツールCD内の「ServerViewユーザーズガイド」の異常発生時の対処（ASR）を参照してください。

> 注意
> 「監視する」に設定したまま、アップデート作業を行った場合、本サーバが自動的に電源切断や再起動するなど、意図しない動作をすることがあります。

4.3.3 REMCSエージェントの設定の確認

REMCSエージェントが導入されている場合、運用操作メニューの保守作業ステータスを「保守作業中」に変更してください。
REMCEエージェントについては、PRIMERGYドキュメント&ツールCD内の「REMCSエージェント運用ガイド」の保守作業の開始／終了を参照してください。

4.3.4 ブートシーケンス設定の確認

BIOS/Firmwareアップデート作業には、CD-ROMよりサーバを起動する手順が含まれます。ブートシーケンス設定（OSをどのドライブからどの順番で読み込むかについての設定）を標準から変更

している場合、CD-ROMからサーバを起動できないことがありますので、ブートシーケンス設定の確認を行い、CD-ROMからサーバを起動できる設定にしてください。 尚、本作業の具体的なPRIMERGYドキュメント&ツールCD内の取扱説明書の「ハードウェアの設定／各種ユーティリティ」の章を確認の上、作業を行ってください。

4.4 BIOS / Firmwareアップデート

以下の手順に従い、BIOS/Firmware をアップデートして下さい。ここではPRIMERGY TX150 S5 を例に説明しています。

(1) サーバ本体添付の『はじめにお読みください』、『ユーザーズガイド』をご参照の上、サーバの電源を入れ、すぐに「PRIMERGY BIOS / FW Update CD for PG-VGA201」をドライブにセットします。

CD-ROM から起動し、以下の画面が表示されますので、ご使用のキーボードに合わせて「1」もしくは「2」を入力します(約 30 秒後、自動的に「1」が選択されます)。

```
Please select:
   1 = JP Keyboard
   2 = US Keyboard
Your selection [1,2]?
```

POINT

CD-ROM から起動しなかった場合、以下についてご確認ください。
・フロッピーディスクドライブを搭載している機種の場合、媒体が入っていないか
・サーバ本体の BIOS セットアップユーティリティ内にてブートシーケンス設定がご購入時の設定から変更されていないか(4.3.4 ブートシーケンス設定の確認)

(2) アップデートプログラムが起動し、次の画面が表示されます。

```
Product name     : PRIMERGY TX150 S5 / TX150W S5
BIOS version     : 1.02
iRMC FW version  : 1.30A
LAN FW version   : 1.00

Please select:
   1 = Update 1
   2 = Update 2
   3 = End
Your selection [1,2,3]?
```

P.1「Fig 1. グラフィックスカードを搭載可能なサーバ本体 BIOS 版数一覧」をご確認の上、画面に表示されている BIOS version が一覧より古い場合は(3)へ進んでください。版数が同じか、あるいは新しい場合はアップデートの必要はありません。CD-ROM を取り出した後、電源ボタンを押して電源を切ってください。

POINT

サーバ本体の BIOS 版数が P.1「Fig 1. グラフィックスカードを搭載可能なサーバ本体 BIOS 版数一覧」より新しい場合、「1」を入力してもアップデートは実行されません。

(3) 「1」を入力すると、確認のため「Are you sure to start Update 1 [Y,N]?」と表示されます。「Y」を入力すると BIOS アップデートが開始されますので、完了するまでしばらくお待ち下さい(同時に iRMC Firmware、LAN Firmware がアップデートされる場合があります)。

サーバ本体のBIOS/Firmware 版数が、P.1「Fig 2. アップデート後の版数一覧」より新しい場合にはアップデートされません。CD-ROM を取り出して電源を切ってください。

アップデートが完了すると、自動的に再起動します。

注意
BIOS/Firmware のアップデート中に予期せぬ電源切断やリセット等を行うと、サーバが動作しなくなることがあります。

手順の中で明記されているタイミング以外での電源の切断およびシステムリセットは、絶対に行わないでください。

万が一アップデートに失敗し、サーバが正常に動作しなくなった場合は、「6. BIOS のリカバリー方法について」をご覧になり、復旧作業を行ってください。

注意
BIOS/Firmware のアップデート中に本体の状態表示ランプが点灯/点滅する場合があります。異常ではありませんので、アップデートが完全に終了するまでお待ち下さい。

(4) 再度 CD-ROM から起動しますので、(2)を参考にキーボードの種類を選択します。アップデートプログラムが起動し、以下の画面が表示されます。

```
Product name    : PRIMERGY TX150 S5 / TX150W S5
BIOS version    : 1.05
iRMC FW version : 1.52A
LAN FW version  : 1.00

Please select:
   1 = Update 1
   2 = Update 2
   3 = End
Your selection [1,2,3]?
```

BIOS version が新しくなっていることをご確認の上、「2」を入力して Update 2 を実行してください。確認のため「Are you sure to start Update 2 [Y,N]?」と表示されます。「Y」を入力すると、Update 2 が始まります。

注意
(3)でBIOS/Firmwareアップデート後は、必ずUpdate 2を実行してください。実行しない場合、OSがインストールできない、ServerViewが正常に動作しないなど、予期しない現象が発生する場合があります。

(5) Update 2 が正常に終了すると、次の画面が表示されます。

```
PRIMERGY TX150 S5 / TX150W S5
BIOS and FW are updated.
Please turn off the system.
```

CD-ROM を取り出した後、電源ボタンを押して電源を切ってください。

4.4 アップデート後の作業

4.4.1 ServerViewの起動監視機能設定の復元

4.3.2でServerViewの起動監視機能設定を変更した場合は、元に戻してください。

4.4.2 REMCSエージェントの設定の復旧

4.3.3 で、REMCSエージェントの保守作業ステータスを「保守作業中」へ変更した場合は、元に戻してください。

> 注意
> 本設定変更を行った場合、アップデート作業完了後に必ず元の設定に戻してください。設定を元に戻さない場合、障害発生時に通知がされない為、富士通サポートセンター(OSC)は障害発生を認識できません。

4.4.4 ブートシーケンス設定の復旧

2.4.4でブートシーケンス設定を変更した場合は、元に戻してください。

4.5 システムの正常起動の確認

システムが正常に起動することを確認してください。

アップデート作業は以上で完了です。

5. Server Management Tools作成について

BIOS アップデート後は、本体装置添付の Server Management Tools が使用できなくなる場合があります。以下の表をご参照の上、最新の Server Management Tools をご使用下さい。

サーバ本体	Server Management Tools 版数	プログラム
PRIMERGY RX300 S3	V1.0 L20	[CD-ROM]:¥SMT¥RX300S3¥SMT.BAT
PRIMERGY RX200 S3	V1.0 L20	[CD-ROM]:¥SMT¥RX200S3¥SMT.BAT
PRIMERGY TX200 S3	V1.0 L20	[CD-ROM]:¥SMT¥TX200S3¥SMT.BAT
PRIMERGY TX150 S5, TX150W S5	V2.0 L10	[CD-ROM]:¥SMT¥TX150S3¥SMT.BAT
PRIMERGY RX100 S4	V2.0 L10	[CD-ROM]:¥SMT¥RX100S4¥SMT.BAT
PRIMERGY TX120, TX120W	V2.0 L10	[CD-ROM]:¥SMT¥TX120¥SMT.BAT

以下についてご用意下さい。

・フォーマット済フロッピーディスク　1枚（以前の内容は消去されます）
・フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブを搭載、Windows がインストールされたパソコン

(1) CD-ROM ドライブに『PRIMERGY BIOS / FW Update CD for PG-VGA201』、フロッピーディスクドライブに『フォーマット済フロッピーディスク』をセットしてください。他のアプリケーションは全て終了させて下さい。
(2) 本製品を搭載する装置に合わせて CD-ROM 内のプログラムを実行し、『Server Management Tools』を作成してください。作成されたフロッピーディスクのラベルには、対応機種、Server Management Tools の版数に合わせて以下のように記載してください。

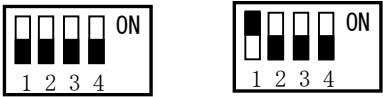
PRIMERGY [機種名] Server Management Tools [版数]	例：	PRIMERGY TX150 S5 Server Management Tools V2.0 L10

> 注意
> 必ずサーバ本体に合ったプログラムを実行してください。異なる装置の『Server Management Tools』を作成した場合は正常に動作しません。

６．BIOSのリカバリー方法について

BIOS アップデート中にサーバ本体の電源が切れてしまった場合など、BIOS アップデートに失敗すると、再度電源が投入してもサーバ本体が正常に動作しない場合があります。このような場合は BIOS のリカバリーにより修復してください。その手順について説明します。

以下についてご用意下さい。

・フォーマット済フロッピーディスク　１枚（以前の内容は消去されます）
・フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブを搭載、Windows がインストールされたパソコン

(1) CD-ROM ドライブに『PRIMERGY BIOS / FW Update CD for PG-VGA201』、フロッピーディスクドライブに『フォーマット済フロッピーディスク』をセットしてください。他のプログラムは全て終了させて下さい。
(2) 本製品を搭載する装置に合わせて、CD-ROM 内の以下のプログラムを実行し、『BIOS リカバリーFD』を作成してください。

サーバ本体	プログラム
PRIMERGY RX300 S3	[CD-ROM]:¥Recovery¥RX300S3¥Recovery.bat
PRIMERGY RX200 S3	[CD-ROM]:¥Recovery¥RX200S3¥Recovery.bat
PRIMERGY TX200 S3	[CD-ROM]:¥Recovery¥TX200S3¥Recovery.bat
PRIMERGY TX150 S5, TX150W S5	[CD-ROM]:¥Recovery¥TX150S3¥Recovery.bat
PRIMERGY RX100 S4	[CD-ROM]:¥Recovery¥RX100S4¥Recovery.bat
PRIMERGY TX120, TX120W	[CD-ROM]:¥Recovery¥TX120¥Recovery.bat

注意
必ずサーバ本体に合ったプログラムを実行してください。異なる装置の『BIOSリカバリーFD』で以降の手順を実施してもアップデートは実行されません。

(3) サーバ本体の電源を切断し、全ての AC ケーブルを抜きます。
(4) サーバ本体のサイドカバー/トップカバーを取り外し、ベースボードが見える状態にします。取り外し方はドキュメント&ツール CD 内のユーザーズガイドを参照してください。
(5) ベースボード上のスイッチブロック/ジャンパスイッチを下記のように変更します。これらの位置についてはカバーの裏面ロケーションラベルに表示されています。

POINT
複数のスイッチブロック/ジャンパスイッチが並んでいる場合があるので、必ずマーキングの文字を確認して下さい。

(6) サイドカバーを閉じます。
(7) AC ケーブルを接続し、フロッピーディスクドライブに(2)で作成した『BIOS リカバリーFD』を挿入して、サーバの電源を投入します。

(8) フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し、BIOS の書き込みが始まります。BIOS 書き込みを行っている間は、フロッピーディスクドライブのアクセスランプ以下のように変化します。

サーバ本体	フロッピードライブ
PRIMERGY RX300 S3	点灯(約 180 秒) ⇒ 消灯
PRIMERGY RX200 S3	点灯(約 180 秒) ⇒ 消灯
PRIMERGY TX200 S3	点灯(約 180 秒) ⇒ 消灯
PRIMERGY TX150 S5 / TX150W S5	点灯(約 180 秒) ⇒ 消灯
PRIMERGY RX100 S4	点灯(約 60 秒) ⇒ 消灯(約 100 秒) ⇒ 点灯(約 5 秒) ⇒ 消灯(約 20 秒) ⇒ 点灯(約 20 秒) ⇒ 消灯
PRIMERGY TX120 / TX120W	点灯(約 80 秒) ⇒ 消灯(約 60 秒) ⇒ 点灯(約 5 秒) ⇒ 消灯(約 20 秒) ⇒ 点灯(約 5 秒) ⇒ 消灯

※リカバリーが終了するとビープ音(単音 2 回)が鳴り続きます。

(9) サーバの電源を切断してください。(電源ボタンを長押しして電源を切断して下さい)

(10) フロッピーディスクを取り出し、全ての AC ケーブルを抜きます。サーバのサイドカバー/トップカバーを取り外し、スイッチブロック/ジャンパスイッチを(5)項の「変更前」に戻してください。

(11) サイドカバー/トップカバーを閉じます。

POINT

リカバリブートを行うと、エラーランプが点滅しエラーログが残る場合があります。この場合は以下の手順を実施してください。

(1) サーバの電源を投入し、POST 時に<F2>キーを押下して、BIOS セットアップユーティリティを起動します。

(2) 起動後、[Advanced]メニューにある[Reset Configuration Data]を[No]から[Yes]に変更します。

(3) [Exit]メニューにある[Save Changes and Exit]を選択してセットアップを終了します。

以上でBIOSのリカバリーは終了です。BIOSリカバリーによりBIOS版数は最新となりますが、アップデートの処理は途中で止まっていますので、「4. BIOS / Firmware アップデート手順について」に従い、必ず最初からもう一度BIOS/Firmwareのアップデートを実施してください。

また BIOS リカバリーを実行すると BIOS の設定情報は通常初期状態に戻るため、全てのアップデートが完了した後に BIOS Setup Utility より再設定してください。

７．メッセージ一覧

BIOS/Firmwareのアップデートで表示されるエラーメッセージとその対処方法一覧です。

	エラーメッセージ	内容	対処方法
1	This medium is broken !!	メディアが破損しています。	CD-ROM driveをクリーニングして下さい。
2	System does not match this update-tool !! Please remove this disk and turn off this system.	本CDの対象外です。	装置型名を再度ご確認下さい。
3	Unknown BIOS/FW version found !! Please remove this disk and turn off this system.	本CDの対象外です。	装置型名を再度ご確認下さい。
4	SYSTEM BIOS update reported errors !! Please remove this disk and turn off this system.	BIOSアップデート中にエラーが発生しました。	一旦電源を切り、AC cable を抜いた後、再度「4.4 BIOS / Firmware アップデート」から実行して下さい。解決しない場合「6.BIOS のリカバリー方法について」を実行して下さい。
5	Please choose Update 1 before Update 2.	Update 2 の前に、Update 1 を実行して下さい。	Update 2 の前に、Update 1 を実行して下さい。

Ⅱ．Red Hat Enterprise Linuxをご使用のお客様へ

本製品に添付の『グラフィックスカード取扱説明書』の追記事項を記載しておりますので、本項をよくお読みの上ご使用願います。

1. 対象機種およびディストリビューションについて

PRIMERGY 機種名	対象ディストリビューション
RX200 S3 RX300 S3 TX150 S5 TX200 S3	Red Hat Enterprise Linux AS/ES (v.4 for x86) Update3 以降 カーネル版数:2.6.9-34.EL 以降 Red Hat Enterprise Linux AS/ES (v.4 for EM64T) Update3 以降 カーネル版数:2.6.9-34.EL 以降 Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)以降 カーネル版数:2.6.18-8.el5 以降 Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)以降 カーネル版数:2.6.18-8.el5 以降
RX100 S4 TX120	Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for x86) Update4 以降 カーネル版数:2.6.9-42.EL 以降 Red Hat Enterprise Linux ES (v.4 for EM64T) Update4 以降 カーネル版数:2.6.9-42.EL 以降 Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)以降 カーネル版数:2.6.18-8.el5 以降 Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)以降 カーネル版数:2.6.18-8.el5 以降

2. 本製品の増設について

本製品の増設を行った場合、Red Hat Enterprise Linux ES/AS (v.4 for x86/EM64T)でご利用の場合は、電源投入後の状態が以下の３種類になります。状態に合わせた手順を実施してください。
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86/Intel64)でご利用の場合は、特に注意事項はありません。

- ハードウェアの検出/設定ツール (Kudzu) が自動起動された場合は[2.1 Kudzu が起動した場合]を実施してください。
- ログイン画面が表示された場合は[2.2 ログイン画面が表示された場合]を実施してください。
- 上記以外（メッセージが表示）の場合は、[2.3 上記以外（メッセージが表示）の場合]を実施してください。

2.1 Kudzu が起動した場合

1) 任意のキーを押します。
   追加されたハードウェアが検出されると、設定確認の画面が表示されます。
2) 任意のキーを押します。
   表示された画面では、すべて「設定」を選択します。
   設定が終了すると、ログイン画面が表示されます。

2.2 ログイン画面が表示された場合

以下の手順でグラフィックスカードの設定を行ってください。

1) 「アプリケーション」メニュー →「システム設定」→「ディスプレイ」をクリックします。
   ディスプレイ設定画面が表示されます。
   また、以下のコマンドにより設定画面を表示することもできます。
   # system-config-display
2) ビデオカードタイプに「NVIDIA Unknown (generic)」が選択されている場合は、［キャンセル］をクリックし、以降の処理を実施せずに抜けてください。
   他のビデオカードタイプが選択されていた場合は、ビデオカードタイプの[設定]をクリックします。

3) ビデオカードタイプに「NVIDIA Unknown (generic)」が選択されている場合は、［キャンセル］をクリックし、以降の処理を実施せずに抜けてください。

4) 他のビデオカードタイプが選択されていた場合は、ビデオカードタイプの[設定]をクリックします。

5) 「NVIDIA Unknown (generic)」を選択し、［OK］をクリックします。

6) ディスプレイ設定画面で［OK］をクリックします。
設定変更の確認画面が表示されます。

7) ［OK］をクリックします。

2.3 上記以外（メッセージが表示）の場合
以下のメッセージが表示されます。以下の手順を実施してください。

```
I cannot start the X server(yor graphical
interface). It is likely that it is not set
up correctly. Would you like to view the X
server output to diagnose the problem?
                <Yes>          <No>
```

8) <No>を選択します。

```
Would you like me to try to run the X
configuration program? Note that you will
need the root password for this.
                <Yes>          <No>
```

9) <No>を選択します。

```
I will disable this X server for now. Restart
GDM when it is configured correctly.

                     <OK>
```

10) <OK>を選択します。
11) rootでログインします。
12) 以下のコマンドを実行します。
system-config-display
13) ［ハードウェア］タブをクリックし、ビデオカードタイプの［設定］をクリックします。
14) 「NVIDIA Unknown(generic)」を選択し、[OK］をクリックします。
15) ディスプレイ設定画面で［OK］をクリックします。
設定変更の確認画面が表示されます。
16) ［OK］をクリックします。
17) 以下のコマンドを実行し、Xを起動します。
startx

3. 本製品を搭載してインストールを行う場合について
本製品を搭載してインストールを行う場合、「ご使用の手引き」および「インストールガイド」のインストール後の環境設定において、「■ ビデオドライバのアップデート」の手順を実施せずに、本書の[2.2　ログイン画面が表示された場合]の手順に読み替えて作業して頂きますようお願いします。

以上